九重・平治岳、北大船山

【報　告　者】Ｉ藤、Ａ塚
【日　　時】2012 年 6 月 9、10 日【天　候】9 日曇り時々雨、10 日曇り
【参　加　者】Ｓ崎、Ａ屋、Ｉ藤、Ａ塚

≪コースタイム≫

9 日/長者原(12:30)＝（雨ケ池経由）＝坊がつる（14：50）
10 日/坊がつる(4:00)＝平治岳（5：40）＝北大船山（7：20）＝坊がつる（8：30)、坊がつる（9：30）＝（スガモリ経由）＝長者原（11：40）

≪　報　　告　≫

1 日目

あいにくの天候で、霧が辺りに立ち込めた状況での出発でした。タデ原湿原ではどこに行けばいいのやら、ココだけの話、ちょっとだけ道を間違えました(笑)。さてタデ原湿原を越え、しばらく歩くと「**ギャ～**」というＩ藤さんの声！大きなカエルが登山道の真ん中にド～ンと座り込んでいたんです。しかも夫婦？で。賑やかなお出迎えでした！その後は順調に予定通りのコースタイムで坊がつるに着くことができました。残念だったのは終始霧がかかっており、景色が見えなかったことでした。さてテン場に着くとこの天候ながらも、週末ということもあり多くのテントが設営されていました。場所を探し、設営後は法華院温泉に入り早速ビールをプッシュっと♪そしてのんびりと今日のメイン「キムチ鍋」を作り、翌日の早朝に備えました。（報告/Ａ塚）

２日目　朝４時登山開始。名所であるミヤマキリシマの群落を見たく、平治岳に向かう。ヘッドライトの明かりだけを頼りに進むが、先日からの雨で、足元はぬかるみ、注意しながら黙々と慎重に歩んでいく。メンバーの心境は、転びたくない気持ちで一心である。まるで、洞窟の中を歩くこと１時間位。周囲の景色が少しずつ見え始め、今日１日のスタートが感じられる。カッコウやウグイスの声を聴きながら大戸越えにひとまず到着。メンバーの靴やウェアの裾をまじまじ見てみると、泥模様。何だか、くすっと可笑しくそしてみんな一緒なんだと安堵する。しかし、肝心の群落はガスにより、生憎、目には映ってこない。

ところで深山霧島とは、ツツジの一種で比較的標高の高い火山帯に分布し、５、６月がピークだという。また、火山性ガスに晒され、環境に対応して出来た品種とされている。

これから先にある、平治岳の急登を私は、喘ぎながら進み、山頂と思いきや南峰。リーダーのＳ崎さんから足早と促され、本峰へ向かう。時間が遅れると、シーズン中の登山客で山道が混雑するとのこと。いよいよ、本峰到着。早くも数名の写真家が、三脚を立てて今か今かと待ち受けている。私は、日の出前に登山する経験がなかったため、意味が分からないまま。

Ｓ崎さんの声掛けにはっとする。「何？海？これが雲海…」数秒の瞬く間。雲海から垣間に見える連峰が素晴らしく美しい。シャッターを押そうとすると、雲に隠れて絶妙なタイミングを逃してしまう。

すると次はＡ屋さんとＡ塚さんが、真っ直ぐ遠く見えるかげに手を振っている。確かに自分の姿が被写体のように雲に写って見える。「不思議…しかも虹？丸い輪？」

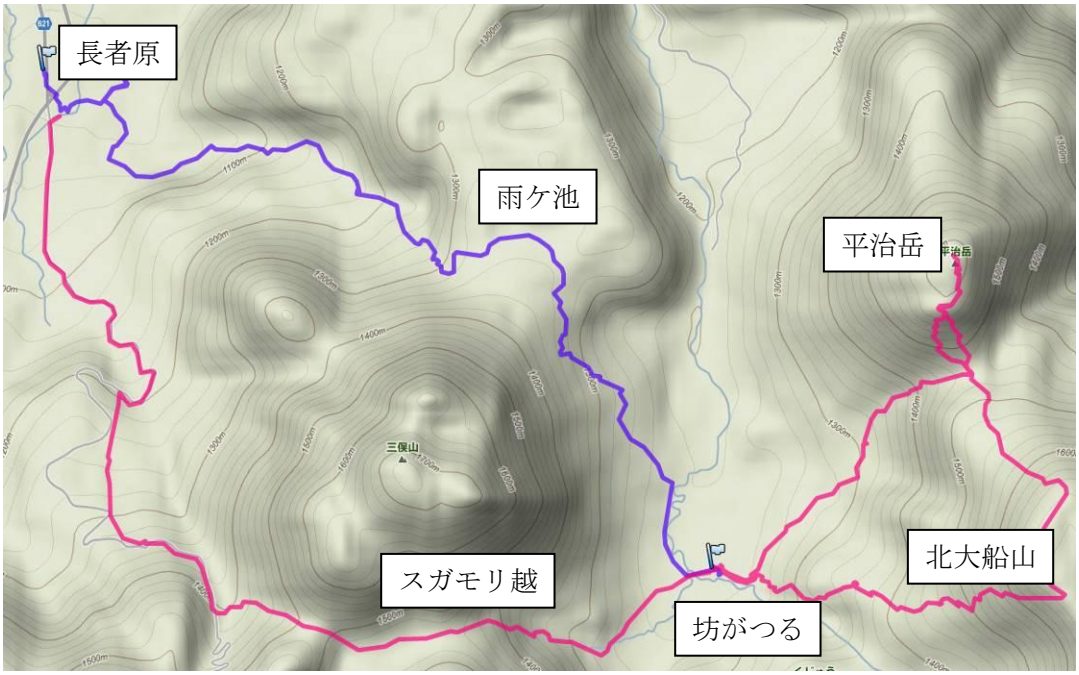
これは、光が背後から差し込む影の側にある雲粒や霧粒によって光が散乱するのだという。（ブロックン現象）

そして、我々メンバーは、再び大戸越えに戻り、北大船山を目指す。

面白いことに北大船から、平治岳を望み、先程登ってきたピンクの山道が見える。

山頂では、天気がいいと由布岳や祖母山が見渡せる。

そして、坊がつるキャンプ場へ戻り、ガレ場の急

登を通過し、すがもり越えに到着。
愛の鐘とやらを鳴らしてみる。なかなか素敵な響き。指導標代わりの黄色いマーカーに沿って進む。
途中、硫黄山からの噴煙が見える。下山。長者原パーキングエリアに到着。
今回の山行に参加させて頂き、見事な絶景が私の記憶の中に刻まれた。（もちろんカメラにも…）至福の時を得て心も体もリセットされた。
色々教えて頂いたリーダーを始め、参加者メンバーの方々ともに無事下山出来たこと、感謝の気持ちを心からお礼申し上げます。（報告/Ｉ藤）

≪概念図あるいはルート図≫